

八王子市郷土資料館だより

HACHIOJI CITY HISTORICAL MUSEUM NEWS

vol. 114

2025. 3



古い写真を読む④ 「正月の八王子市消防組」 昭和戦前期

目次

- P.1 古い写真を読む④
「正月の八王子市消防組」(昭和戦前期)
- P.2 鉄道開業当時の時刻表と改暦・新貨幣制度
- P.3 八王子の商店街と鈴蘭灯
- P.4 はちくで実施した「経糸つなぎ」作業報告
- P.6 狭間地域の巡見実習の報告 後編
- P.8 新指定の文化財「小銅鐸(中郷遺跡出土)」

中心市街地(旧八王子市)では、^{とびしょく}鳶職により消防組が組織されていた。写真には「八王子市消防組」の半纏^{はんてん}を着た消防組員の鳶職^{まとい}が纏を先頭に勢ぞろいしており、後方には四輪の消防ポンプが写っている。商店に松飾りが付けられていることから、新年の消防出初式前後の記念撮影と考えられる。

甲州街道には、市電(武蔵中央電気鉄道)のレールが敷かれており、時代は昭和4年(1929)から13年と推定できる。正月5日前後に行われた出初式は、消防ポンプの操法や、消防組員による^{ほしご}階子乗りの妙技が繰り広げられ、大勢の見物客でにぎわう新年の風物詩であった。現在、階子乗りは八王子消防記念会で継承されている。(美甘)

新指定の文化財「小銅鐸（中郷遺跡出土）」

河津 美穂子

八王子市では、地域の歴史を知る上で重要な文化財を条例で指定して保護しています。令和5年度（令和6年3月25日告示）に新たに「小銅鐸（中郷遺跡出土）」を有形文化財（考古資料）に指定しましたので紹介します。

「銅鐸」というと、高さ数十cmから1mを超える大きなものを想像されるかもしれませんが、中郷遺跡（八王子市長房町）から出土した「銅鐸」は、高さは約3cmという大変小さなもので、「小銅鐸」と分類されます。

「小銅鐸」は全国でも60数点（指定時）しか出土していない希少なものです。八王子のものは都内では新宿区に続く2例目の発見で、平成9年度（1997年度）実施の長房団地建替事業に伴う発掘調査で、弥生時代末期と考えられる住居跡から出土しました。

一般的な「銅鐸」が集落などから離れた場所にまとめて埋められた状態で発見されることが多いのに対し、「小銅鐸」は住居など生活に関連した遺構から単独で出土する傾向にあるのが特徴です。八王子出土の小銅鐸もその傾向を補強するものとなっています。

また本資料は、銅製品が広く普及する前の時代のものです。銅に限らず金属製品にまで幅を広げても、八王子市域の遺跡からの出土例が少ない点で貴重といえます。

今回、こうした点から地域の歴史資料として貴重であり、また学術的価値も高いとして、八王子市の文化財に指定されました。

桑都日本遺産センター八王子博物館（ちはく）で、レプリカが展示されています。小さくて目立ちませんが、じっと見つめるとなんとなく愛嬌を感じる資料です。

【データ】

高さ 約3.3cm
最大幅 約2.5cm
重量 約5.9g
時代 弥生時代末期
青銅製



小銅鐸正面



出土状況